



市ヶ谷キャンパス55・58年館
建替工事竣工のお知らせ

2014年3月の着工から足掛け7年にわたる大規模な工事となった、市ヶ谷キャンパス55・58年館建替工事は、2021年1月末に竣工いたしました。

戦後の日本を代表する大学建築であった55・58年館の特徴ある外観やディテールは、学舎とした卒業生のみならず、多くの人々の記憶に刻まれてきました。そうした「キャンパスの記憶、歴史をつなぐ」というコンセプトの下、キャン

パス全体の一体的利用を可能とする建物・外構配置、水と緑に恵まれた周辺環境との調和などを図りながら工事は進められました。2016年8月に富士見ゲート、2019年3月に大内山校舎が竣工、その後中央広場や大内山庭園を中心とした外構工事を経て、建替工事計画を全て無事に完了。市ヶ谷キャンパスの教育・研究施設、学生生活環境のさらなる充実が実現されました。



外濠側（正門付近）から見た富士見ゲート



キャンパス中央広場から見た大内山校舎



キャンパス中央広場を中心とした工事区域全景



大内山庭園



長引くコロナ禍の影響は、社会に大きく広がっています。学生のキャンパスライフが大きく制約され、主体的な活動の場を失ったことによる喪失感や孤立感をかかえた学生たちに対しては、それを補える機会を創出していくことが必要です。経済的にも精神的にも、必要に応じた支援を継続的に展開してまいります。加えて、日本に入学できずにいる留学生のことも、重大な課題として受け止め、対策を講じています。

授業運営に対しては、対面授業でなければできないことが在ると痛感する一方で、オンライン授業が持つ可能性も実感することができました。この経験を生かせる今は、大学教育を新しい発展に導く好機でもあると受け止めています。これまでの授業運営の在り方を見直し、対面授業とオンライン授業のベストミックスを模索しながら、法政大学の教育をさらに力強く、学生を成長させるものに進化させていくことを目指します。

また、昨年以來、教員が講師となつて職員に対する研修を行うなど、教員と職員がお互いの強みを生かし合う、「教職協働」の確立を進めています。行政学を研究してきた私自身も、職員に向けて行政の制度を解説した上で、大学としてのポリシーをどのように実現するか、といった話を行っています。こうした学び合いの機会を通して、それぞれの教職員が持つ経験と知識を効果的に組み合わせることで、大学の総合力向上につなげたいと考えています。

| 巻頭言 |

社会と約束を結び直し、
法政らしさを創出していく

法政大学総長 廣瀬 克哉

いま大学に対する社会の理解や評価は、イメージが先行して揺らいでいます。大学という教育機関の特性と、社会から求められる人材像、それぞれを深いレベルで理解し、結びつけることで、総合的に社会へ貢献できる人材を育てていく。そのような関係性を再構築するために、社会と法政大学との間で約束を結び直す時期ではないかと考えています。

法政大学での学びは、あらゆる立場の人びとへの共感力を養い、問題の本質をとらえる健全な批判精神と、課題解決力を育てていくことにほかなりません。硬派なイメージを持たれることの多い本学ですが、今の実像は、3キャンパスに15学部を擁する総合大学として、男女ともにバランス良く活躍の機会を有している

と自負しています。

建学以来、「自由と進歩」の精神を尊んできた法政大学は、法政大学憲章で「自由を生き抜く実践知」を掲げ、世界のどこでも生き抜く力を有する人材を創出し続けていくことを社会に向けて約束しています。卒業生の皆さまも、ご自身の歩みを振り返り、思い出を語る時、自分の中にある「実践知」について、考えてみていただけないでしょうか。その答えの中に、法政大学らしさがあることでしょう。

大学を取り巻く環境が一層厳しさを増すこれからの時代を、「自由を生き抜く実践知」によって乗り越え、これまで推進してきたブランディング活動をさらに強化し、大学運営に臨んでいきたいと考えています。



| Hirose Katsuya |

1958年生まれ。法学部教授。1981年東京大学法学部卒業、1983年同大学院法学政治学研究科修士課程修了、1987年同大学院同研究科博士課程単位取得退学、同年法学博士学位取得。同年法政大学法学部助教授、1995年同法学部教授。2008～2011年度総合情報センター所長、2012～2013年度法学部長等歴任。2012年度～現在学校法人法政大学評議員、2014～2020年度学校法人法政大学常務理事、2017～2020年度法政大学副学長、2021年度～現在法政大学総長。

HOSEI 8・9 Contents

communication magazine 2021

- 02 HOSEI EYE 市ヶ谷キャンパス55・58年館 建替工事竣工のお知らせ
- 03 巻頭言 法政大学総長 廣瀬克哉
「社会と約束を結び直し、法政らしさを創出していく」
- 04 2020年度決算について
- 05 2021年度予算について
- 07 HOSEIみらい募金
- 08 2020年度卒業生の進路状況について
- 09 2021年度入試結果について
- 10 社会をリードする「法政の研究ブランド」

- 12 卒業生インタビュー
「世界はつながっている。それを感じてもらうため、活動で知った共通点を発信していきたい」
国境なき医師団 プロジェクト・コーディネーター 末藤 千翔さん
- 14 ESSAY
「経済学とデータ分析で真実に迫る」
経済学部経済学科 准教授 濱秋 純哉
- 16 HOSEI PHRONESIS VOL.38
「デザインとエンジニアリングを融合したメカニズムを探究」
デザイン工学部システムデザイン学科 准教授 山田 泰之

- 18 MY CAMPUS, MY LIFE
キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 斎藤嘉孝教授ゼミ／英語研究会ESS
 - 20 Message 「諦めない走り」
社会学部社会学科4年 鎌田 航生さん
 - 21 THE SCENE VOL.130 バスケットボール部
 - 22 後援会だより 「支部長会議」報告 「2021年度 後援会の主な事業」など
 - 26 HOSEI ミュージアム VOL.020
「江戸東京研究センター(EToS)特別展示 江戸と東京との連続性～文理の壁を越えて、現代的意味を追究～」
 - 27 校友会だより
 - 28 HOSEI TOPICS
 - 30 付属校短信
 - 31 BOOKS
- 裏表紙 2020年度自由を生き抜く実践知大賞4

COVER 小金井キャンパス 撮影：平野太呂

広い芝生の中庭は開放的な雰囲気で、距離をとりながら仲間同士で語り合うのに適しています。正面に見えるのは北館で、理工学部の実験室や研修室が入っています。

2021年度予算について



2021年度 予算編成の基本方針

1

事業活動収支計算において、基本金組入前当年度収支差額の目標値を10.2億円(±2億円)とし、全ての経費について、費用対効果を重視した見直しを徹底する。

2

第一期中期経営計画に基づく各取り組み課題について、新型コロナウイルス感染症への対応を念頭に、各取り組み施策の継続的な実施を図る。

3

減価償却引当特定資産(40億円)および教学改革引当特定資産(80億円)の積み増しを行う^(※)。

※再度理事会で慎重に協議した結果、教学改革引当特定資産については、より具体的な事業計画の検討をした後、改めて計上することに変更しました。

学校法人の予算とは

学校法人を運営するための財源は、その大半が学生・生徒(保護者)からの学費、受験料、寄付金および国・地方公共団体からの補助金などの資金によって賄われています。これらの収入を見積もり、いかに効率的・効果的に教育研究活動や施設・設備の改善・充実を図っていくかの計画を立てるのが学校法人の予算です。学校法人の収入源

① 予算編成方針
 中学の中長期的な収支見通しは、収入面においては、文部科学省による定員管理の厳格化政策のもと、学校法人の主たる収入である学生生徒等納付金の大幅な増額を見込むことは困難であり、この状況は今後も続くことが見込まれます。また、コロナ禍による志願者動向にも注視が必要であり、特に学部一般入試の志願者数想定は保守的にならざるを得ない状況にあります。一方、支出面において、施設・設備の維持・管理・更新などの教育・研究環境整備に要する

経費の他、ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた施設・設備環境の整備やオンライン授業実施環境の整備、奨学金など家計急変学生への経済的支援など、今後も一定の支出規模が続くことが見込まれます。
 2021年度は、直近の各年度における学部新入生の受入状況から学部学生数が減少し、これに伴い、本学の収入の大きな割合を占める学生生徒等納付金は減少が見込まれます。
 長期ビジョン(HOSEI2030)では、中長期財政指標として、事業活動収支差額比率10%の確保を

掲げていますが、2021年度予算は、前述のとおり厳しい収支状況が見込まれていること、およびコロナ禍による事業環境の不透明さなどの実態を考慮し、基本金繰入前当年度収支差額の目標値を10.2億円(事業活動収支差額比率2.1%相当)としました。併せて、全ての事業において、直近の実績や客観的指標などの根拠を重視した予算配分や事業の縮小などを含めた見直しを徹底し、左記の基本方針を掲げ、予算編成を行いました。



は限られています。また、支出も教職員の人件費や校舎の維持費用など、その多くが固定的です。その中で、教育研究条件の向上に努め、質の高い教育研究を永続的に展開していくためには、中長期的な財政計画の下、各年度に具体的方針を定め、教学上の諸要求と財政の調和を図りながら、収支の均衡のとれた予算を編成する必要があります。

2020年度決算について



① 2020年度事業報告

2020年度は急速に拡大した新型コロナウイルス感染症に対応するため、春学期開始時から急ぎ授業をオンラインに切り替えて実施しました。これに合わせて、大学では経済的に困窮した学生への経済支援(奨学金、学内雇用の拡大)、オンライン授業に対する学生の受講環境支援を行い、秋学期からは「学生生活応援プロジェクト」を設置して、コロナ禍における学生同士の交流の場を提供してきました。大学が行う学生への経済支援を確実に支えるために、「新型コロナウイルス緊急対策奨学金」を設立し、多くの方々から支援を頂きました。
 他方、本学は現在、長期ビジョン(HOSEI2030)のもと、2017年度に策定した第一期中

期経営計画(2018年度〜2021年度)により、取り組みを進めています。第一期中期経営計画は、「教学改革(キャンパス再構築の推進)」、「教育研究環境整備」、「財政健全化」を三つの柱として、その中核に位置付けています。
 2020年度に行った主な事業は、①HOSEIミュージアムの設置・運営事業、オンライン化システム構築事業などの重点施策事業、②(文部科学省)スーパーグローバル大学(SGU)創成支援事業、③(市ヶ谷)55・58年館建替工事の他、各校地の空調・防犯設備更新工事などの建設・修繕事業、④教育学術情報ネットワーク(Net2017)、情報教育システム(edu)などのICT事業などです。また、授業実施においては、「ハイブリッド型授業」(対面とオンラインの組み合わせ)や「ハイフレック

ス型授業」(対面授業のオンラインでの同時配信)など、コロナ禍に対応した柔軟な授業設計に取り組むため、2021年度の授業開始に向け、2020年度中に、必要な設備・機器類の設置など準備を行いました。
 上記の他、2019年度より導入している事業評価制度では、2件の事業評価を実施しました。「事業評価制度」は、新規・既存を問わず、事業について、その実現方法やコストの妥当性、目標に対する成果、本学における必要性等を評価するものです。今後、評価結果を踏まえた対応を検討していきます。

は、オンライン講義環境整備事業等に伴う未払金の増などにより前年比18億円の増となりました。また純資産の部は、繰越収支差額23億円の増などにより前年比37億円の増となりました。
③ 事業活動収支計算書(表2)
 2020年度の事業活動収入は501億円となりました。一方、事業活動支出は463億円となりました。事業活動収入から事業活動支出を引いた基本金組入前当年度収支差額は37億円の収入超過となりました。また、基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を控除した当年度収支差額は23億円の収入超過となり、翌年度繰越収支差額は435億円の支出超過となりました。



表1 貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部			
科目	2020年度末	2019年度末	増減
固定資産	205,703	204,998	705
有形固定資産	136,628	138,390	△1,762
特定資産	44,844	44,096	748
その他の固定資産	24,230	22,511	1,719
流動資産	27,299	22,525	4,775
資産の部合計	233,002	227,522	5,480
負債の部・純資産の部			
科目	2020年度末	2019年度末	増減
固定負債	18,904	18,986	△82
長期借入金	4,527	4,904	△377
退職給付引当金	1,181	894	287
流動負債	13,196	13,188	8
短期借入金	11,842	10,009	1,833
未払金・前受金・預り金	377	377	0
未払金・前受金・預り金	11,465	9,632	1,833
負債の部合計	30,746	28,995	1,751
基本金	245,787	244,315	1,471
繰越収支差額	△43,531	△45,788	2,257
純資産の部合計	202,256	198,527	3,729
負債及び純資産の部合計	233,002	227,522	5,480
減価償却累計額	96,065	92,520	3,545
基本金未組入額	6,368	5,908	460

表2 事業活動収支計算書

(単位:百万円)

科目		2020年度決算	※2021年度予算
教育活動収入	学生生徒等納付金	39,263	38,802
	手数料	3,052	3,272
	寄付金	543	389
	経常費等補助金	5,281	4,757
	付随事業収入	437	327
	雑収入	908	1,012
	教育活動収入計	49,485	48,560
	人件費	26,483	26,971
	教育研究経費	17,248	17,800
	管理経費	2,235	2,181
教育活動支出	徴収不能額等	0	0
	教育活動支出計	45,967	46,952
	教育活動収支差額	3,518	1,608
	受取利息・配当金	440	449
	その他の教育活動外収入	31	31
	教育活動外収入計	470	479
	借入金等利息	31	27
	その他の教育活動外支出	0	0
	教育活動外支出計	31	27
	教育活動外収支差額	439	452
特別収入	経常収支差額	3,957	2,060
	資産売却差額	0	0
	その他の特別収入	112	1
	特別収入計	112	1
	資産処分差額	325	68
	その他の特別支出	15	0
	特別支出計	340	68
	特別収支差額	△228	△66
	〔予備費〕		750
	基本金組入前当年度収支差額	3,729	1,244
特別支出	基本金組入額合計	△1,471	△2,661
	当年度収支差額	2,257	△1,417
	前年度繰越収支差額	△45,788	△45,642
	基本金取崩額	0	0
	翌年度繰越収支差額	△43,531	△47,059
	(参考)		
	事業活動収入計	50,067	49,040
	事業活動支出計	46,338	47,797
	事業活動収支差額比率	7.4%	2.5%

(注) 表の金額は百万円未満を四捨五入しています。そのため、合計が計算上一致しない場合があります。

② 2021年度予算の
主な事業

予算編成方針に基づき、2021年度予算に計上した主な事業は次のとおりです。

2021年度予算に
計上した主な事業

【重点施策事業】

オンライン化システム構築事業、HOSEIミュージアムの設置・運営事業、HOSEI 2030タスクフォース関連（多摩キャンパス環境リ・デザイン、地域社会再生教育プログラム開発、男女共同参画アクションプラン）など

【特別事業】

- ① スーパーグローバル大学創成支援事業
（文部科学省）スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業
- ② 建設・修繕事業
（市ヶ谷）ボアソナード・タワー空調設備更新工事、（多摩）中央監視装置更新工事、（小金井）西館中央監視自動制御機器改修工事 など
- ③ 施設の維持・管理事業

総合管理委託事業（警備・清掃）など

④ 奨学金事業
高等教育の修学支援新制度による授業料等減免事業、「開かれた法政21」奨学・奨励金、新・法政大学100周年記念奨学金、SA等奨学金、交換留学生受入れプログラム実施事業 など

⑤ ICT事業
教育学術情報ネットワーク（net2017）の運用、情報基盤システムの運用、市ヶ谷・多摩・小金井情報教育システム（edu）の運用 など

⑥ 広報事業
学生募集に係る入試広報事業など

⑦ 後援会事業
後援会からの寄付金収入を伴う事業

⑧ その他
上記以外の年次計画に基づく各種事業

（単年度で取り組む新型コロナウイルス感染症対応、経常費補助金（特別補助）による大型設備等運営支援事業 など）

③ 事業活動
収支予算の概要

大学の2021年度事業活動

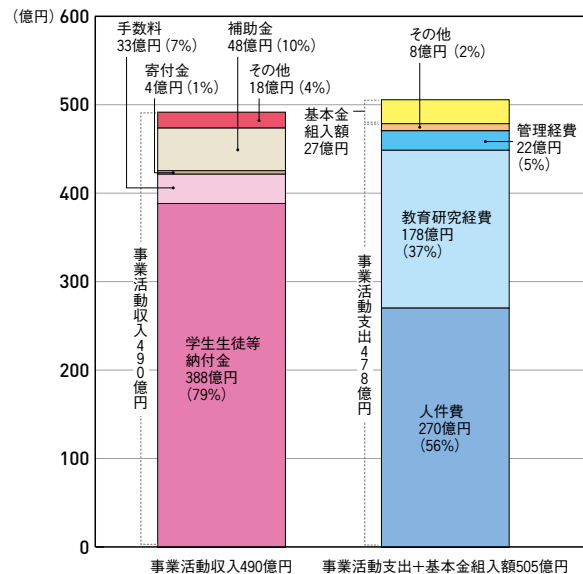
収支予算における事業活動収入、事業活動支出、基本金組入額の構成は図のとおりです。

事業活動収入とは、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金など当該年度に帰属する収入のこと、前受金、預り金、借入金など負債となる収入は含みません。事業活動支出とは、当該年度の教育研究活動のための人件費、教育研究経費・管理経費（減価償却額を含む）などの支出のことで、土地・建物・設備・備品など資産として計上する支出は含みません。

また、基本金組入額とは、主に当該年度の土地・建物・設備・備品などの固定資産取得相当額および奨学金への組入相当額です。学校法人は、事業活動収入から基本金組入額を控除した収入額と事業活動支出額について、中長期的に均衡している状態が望ましいとされています。

2021年度予算の事業活動収入は、490億円となりました。基本金組入額は、（市ヶ谷）ボアソナード・タワー防災設備・時計設備更新工事相当額などの組み入れを見込み27億円となりました。事業活動支出は478億円となりました。内訳としては、人件費は270億円、経費関係は、教育研究経費178億円、管理経費22億円となりました。

図 2021年度事業活動収支予算の構成



（注）左の図の金額は億円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合があります。

これにより、基本金組入前当年度収支差額は12億円の収入超過となり、ここから基本金組入額を控除した当年度収支差額は14億円の支出超過となりました。翌年度繰越収支差額は471億円の支出超過となる見込みです。事業活動収入を構成比率で見ると、学生生徒等納付金が最も多く、79%を占めています。また、国や地方公共団体からの補助金が10%、入学検定料などの手数料が7%、寄付金が1%となっています。事業活動支出の構成比率では、人件費が最も多く56%で、教育研究経費が37%、管理経費が5%となっています。

④ 今後の大学の
財政の在り方について

大学を取り巻く経営環境は、前述のとおり、厳しい状況が続く見込みです。重点的・強化事業への予算配分による事業実施と並行して、経費削減および収入源の確保に係る計画的な取り組みも進めていく必要があります。

2017年度に策定した「第一期中期経営計画（2018年度～2021年度）」のもと、2030年の大学の目指す姿を実現するための諸事業に取り組んでいます。第一期中期経営計画の最終年度にあたる2021年度では、計画の実施・進捗状況を把握するための評価指標や基準の在り方を改めて検討し、2022年度からの第二期中期経営計画を策定します。より強固な財政基盤の構築とともに、諸事業に要する財源の捻出のためにも、引き続き、外部資金の獲得等収入源の拡充や、事業評価制度による事業の在り方の見直しなどの取り組みを進め、中期経営計画の着実な実行を図ります。

◆本学では予算・決算の内容を大学ウェブサイトで公開しています。詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記URLまでアクセスしてください。

<https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/hokoku/>



HOSEI みらい 募金

“みらい”の法政大学をつくる募金をはじめます。
それは、“みらい”の社会をつくる募金です。

今、世界中の人々が誰一人取り残されことなくこの地球で暮らし続けるために、SDGs（持続可能な開発目標）への取り組みが求められています。

わたしたちは、法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」を本学の教育・研究の基本と捉え、
長期ビジョン「HOSEI2030」の実現を通して、
持続可能な社会の未来に貢献していきます。

長期ビジョン「HOSEI2030」は、創立150周年を迎える2030年の法政大学の姿を構想した目標です。「HOSEI2030」の策定の中で、法政大学憲章「自由を生き抜く実践知」を制定し、「世界のどこでも生き抜く力を有するあまたの卒業生たちと力を合わせて、法政大学は持続可能な社会の未来に貢献します」と、社会に対して約束をいたしました。

HOSEIみらい募金へのご寄付は、「HOSEI2030」の実現のため、持続可能な社会の未来に貢献するために活用させていただきます。

わたしたちとともに“みらい”の法政大学、“みらい”の社会をつくりましょう。

HOSEIみらい募金のお申し込みは、インターネットもしくは専用振込用紙で承ります。

HOSEIみらい募金へのご支援はこちらから

法政大学募金ウェブサイト <https://bokin.hosei.ac.jp/>

法政 寄付

お問い合わせ先

法政大学 卒業生・後援会連携室募金課 E-mail: bokin@hosei.ac.jp TEL: 03-3264-9807



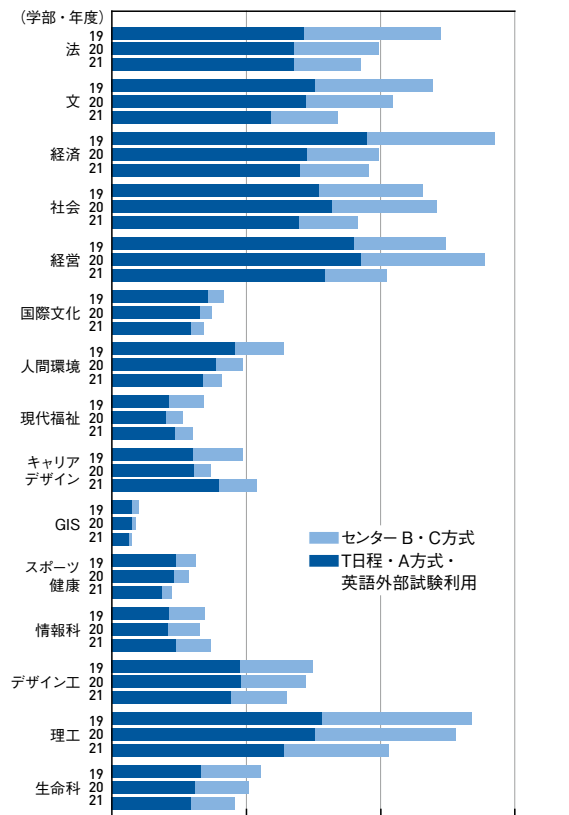
募金ウェブサイトから募金パンフレットや専用振込用紙を資料請求できます。

2021年度入試結果について



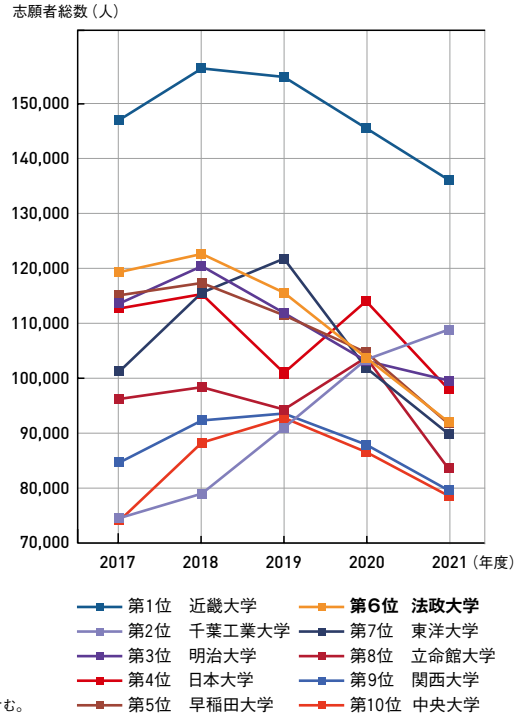
2021年度入試において、大学別志願者数ランキング全国第6位、実志願者数^(※)では全国第2位となりました。
 全学の状況と学部別のデータを示します。

図 2019～2021年度 学部別志願者数推移



※航空操縦学専修の志願者数は、理工学部のT日程・A方式・英語外部試験利用に含む。

図 私大志願者数データ推移 (過去5年間、上位10校)



本学の2021年度一般選抜志願者数は、前年度から1万2672人減の9万956人(前年度比87.8%)で、2年続けて1万人以上減少し、6年ぶりに10万人を下回りました。これまでずっと5位以内をキープしていた大学別志願者数ランキングも、今回は順位が一つ下がって全国第6位となりました(実志願者数は4万5490人で全国第2位)。10万人を超えた大学が前年度の5大学から2大学に減るなど、本学だけでなく全国的に志願者が減っています。このように就職環境の中で、本学学生の就職希望者決定率(就職希望者に占める就職決定者の割合)は95.7%となり、学生たちの健闘がうかがえます。

これに続いては、18歳人口の減少や入試制度改革(大学入試センター試験から大学入学共通テストへの移行)の影響もありますが、それ以上にやはり新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)が大きく影響したと考えられます。首都圏の感染者数の多さに対する不安や、家計状況の悪化などから、地方の受験生が首都圏の大学への進学を取りやめて地元大学に絞ったり、首都圏の受験生も含めて併願数を大幅に減らしたり、さらには緊急事態宣言によって受験勉強にも支障が出たことで、一般選抜から総合型選抜や学校推薦型選抜に切り替えた受験生も数多くいたと思われます。

入試方式別で見ると、法学部政治学科とキャリアデザイン学部が新たに加わった英語外部試験利用入試が、前年度から922人増加(前年度比132.2%)して3年連続の増加となりましたが、前年度同様、それ以外の方式は全て減少しました。特に大学入学共通テスト利用入試は、B方式(3教科型)が5320人減、C方式(5教科6科目型)が1660人減で、共に前年度比70%台にとどまりました。その他、A方式入試(個別日程)は3621人減、T日程入試(統一日程)は2968人減でした(他に航空操縦学専修一般入試が25人減)。

学部別でも15学部中12学部で志願者が減っており、そのうち3学部で前年度比80%を下回りました。志願者が増えた3学部のうち、現代福祉学部とキャリアデザイン学部は前年度の減り幅が大きかったことの反動によるものと考えられますが、情報科学部に関しては、A方式入試の日程を変更して学部内併願が可能になったことが大きな要因と考えられます。それに加えて、コロナ禍において社会のデジタル化が急速に進展したことが、志願者増につながったとも考えられます。

2022年度入試では、社会学部と国際文化学部が新たに英語外部試験利用入試を実施します。また、GIS(グローバル教養学部)は実施する全ての方式で英語外部試験のスコアが必要となります。詳細につきましては、「入試情報サイト」でご確認ください。さらに2022年度入試からオンライン入学手続きシステムを導入して、入学手続きをウェブ化します。2021年度入試はコロナ禍の影響を色濃く受けての実施となりましたが、総合型選抜なども含め、全ての入試を無事に実施することができました。これらの経験を基に、2022年度入試もさまざまなケースに対応できるよう準備を進めてまいります。

※実志願者数とは、同じ志願者が複数併願しても1人として集計

2020年度卒業生の進路状況について



2020年度の本学の就職希望者決定率は95.7%と高い水準になりました。進路状況と主要企業・団体への就職者推移のデータを示します。また、2021年度はコロナ禍の状況においてもさまざまな対応を進め、引き続き学生に寄り添う支援に取り組んでいきます。

図 主要企業・団体への就職者推移 (2018～2020年度)

企業名	2020	2019	2018
清水建設	11	12	8
大成建設	5	11	5
大林組	8	3	6
積水ハウス	3	12	11
大和ハウス工業	15	25	18
サッポロビール	2	3	3
サントリーグループ	0	3	1
山崎製パン	22	10	6
ロッテ	2	2	2
エーザイ	5	3	4
大正製薬	0	1	5
資生堂	0	2	4
NEC	18	28	11
パナソニック	4	12	8
富士通	18	18	19
三菱電機	7	15	9
日立製作所	3	6	7
トヨタ自動車	2	6	9
SUBARU	3	6	8
本田技研工業	15	13	7
キャノン	9	11	5
大日本印刷	6	13	8
凸版印刷	7	19	6
バンダイ	2	3	4
住友商事	0	0	1
三井物産	0	1	2
丸紅	1	3	1
豊田通商	1	0	4
高島屋	0	3	4
セブン・イレブン・ジャパン	5	7	6
みずほフィナンシャルグループ	22	19	19
三井住友銀行	14	11	18
三菱UFJ銀行	7	5	21
りそなホールディングス	26	34	30
横浜銀行	16	15	14
千葉銀行	12	15	21
大和証券	9	11	13
野村證券	4	12	22
第一生命保険	12	19	14
日本生命保険	7	11	13
損害保険ジャパン	2	4	5
三井住友海上火災保険	7	13	14
JR東海	11	11	8
JR東日本	15	30	19
京浜急行電鉄	4	1	1
日本通運	7	10	9
全日本空輸 (ANA)	2	23	18
日本航空 (JAL)	5	25	9
NTT東日本	12	18	14
NTTデータ	12	9	8
KDDI	9	6	8
ソフトバンク	12	16	17
読売新聞社	2	3	2
NHK	9	13	14
TBS	2	1	1
集英社	2	0	1
ADKホールディングス	5	2	2
電通	2	2	1
博報堂	1	1	1
オリエンタルランド	4	7	3
JTBグループ	11	21	25
日本郵政グループ	13	34	27
国家公務員	85	90	67
地方公務員	305	326	296

2020年度(2021年3月)卒業生の求人倍率は1.53倍となりました。前年比では0.3ポイントの減少であり、主な要因は新型コロナウイルス感染症の影響で、従業員規模300人未満の中小企業の求人数が大幅に減ったことにあります。また、航空業界・旅行業界の一部では採用を中止した企業もあり、特定の業界・企業を志望していた学生にとって厳しい就職環境となりました。ただし、リーマンショック後で最も求人倍率が低かった2012年3月卒の1.23倍ほどには落ち込んでおらず、この傾向は2021年度も継続されるものと予想されています。

このような就職環境の中で、本学学生の就職希望者決定率(就職希望者に占める就職決定者の割合)は95.7%となり、学生たちの健闘がうかがえます。

就職者数の多い企業は次のとおりです。①東京都特別区60人、②りそなホールディングス26人、③みずほフィナンシャルグループ22人、④山崎製パン22人、⑤NEC18人、⑥富士通18人。

公務員 国家公務員就職者数は85人、地方公務員においては305人の就職者がありました。本学では2011年度に「公務員

材育成センター」を立ち上げ、キャンパス内で公務員講座を開講し、受講する学生の試験合格に向けて、きめ細かい指導を行っています。

キャリアセンターの取り組み キャリアセンターでは、コロナ禍の環境においても、学生が就職活動で不利を被ることがないよう、さまざまな支援を進めています。個別相談は、これまで対面のみでしたが、ウェブによる相談を追加し、予約時に選択できます。

また、就職支援行事をライブ配信し、企業セミナーなど一部の行事は動画でも残すことにより、授業などで参加できなかった学生も視聴できるようにしています。

7月以降、キャリアセンターで

は全ての学生に進路状況調査を実施し、活動を継続している学生には個別に行事を案内するなど、手厚い支援を行います。夏季休業期間中には、本学学生限定のウェブ合同企業説明会の実施や、採用意欲の高い企業の求人紹介などと個別にマッチングの機会も提供していきます。

提供可能なサービスは状況によって日々変わります。キャリアセンターからの情報発信は、主に大学ウェブサイト、LINE公式アカウント(在学生のみ登録可)にて行っていますので、そちらをご覧ください。今後も学生に寄り添う支援に取り組めます。



法政大学入試情報サイト

<https://nyushi.hosei.ac.jp>

vol.1 スポーツ・メディアのプラットフォーム研究プロジェクト
―「法政スポーツ」を学内外に発信し、「混ざり合う場」を創出―スポーツ健康学部スポーツ健康学科
教授 泉 重樹
社会学部メディア社会学科
教授 諸上 茂光

多摩キャンパスの将来について考える中で、スポーツ分野とメディア分野の教育・研究が進捗し、次世代の担い手の輩出を目指す研究プロジェクトが推進されています。

- 「法政スポーツ」をキャンパス活性化の起爆剤に
- 多方面から自らの研究を見ることが学際的な研究に
- 法政スポーツを学生が発信し、地域や受験生にファンを増やす

vol.2 「イノベーション」から「ソーシャル・イノベーション」へ
―ベネフィットを生み出し、社会的責任を果たせる企業を目指して―現代福祉学部
福祉コミュニティ学科
教授 土肥 将敦

変化し続ける多種多様な社会的課題を「自分ごと」として捉え、向き合っていくには――。ソーシャルマインドとビジネスマインドを融合した新たなスキーム構築に取り組んでいます。

- 世界に広がる“ソーシャル”な潮流
- ソーシャル・イノベーションをマネジメントする時代へ
- 大学でソーシャル・マインドを育むキーワードは「社会実験の場」と「カタルスト」

vol.3 伝統ある祭りはいかに今日まで継承されてきたのか
―8年間のフィールドワーク・参与観察が明らかにしたこと―社会学部社会学科
教授 武田 俊輔

祭りという地域の伝統に根ざした文化を通して、地方都市の社会構造とその変化を考察。住民との触れ合いを重ねたフィールドワークによって、地域社会への理解を深めています。

- 都市祭礼を新たな視点で捉えてみる
- 参与観察を行うことで浮かび上がった地方都市の構造
- フィールドワークを通して多様な「生の在り方」に気付く

vol.4 グローバル・ビジネスにおけるコミュニケーション戦略で
大切なプレゼンテーション力とアカデミック・ライティングとは経済学部経済学科
教授 中谷 安男

これからのグローバル市場では、どのようなビジネス・コミュニケーションが必要になるのか。ケーススタディにより、ビジネスの課題解決能力を磨く後押しをしています。

- ビジネスにおけるコミュニケーション戦略にはセオリーがある
- グローバルに市場を拡大する日本企業で求められる人材
- アカデミック・ライティングの手法はビジネスの現場で武器となる

vol.5 「食べること」を通して、
世界との向き合い方を考える人間環境学部人間環境学科
教授 湯澤 規子

食事や排せつなどは、「生きる」ための大切な活動。日常の中に当たり前のようにあって、見過ごしてしまいやすい領域に踏み込みながら探究しています。

- 食という体験を通すと見えなかった部分に踏み込むことができる
- 食べ物の向こう側にある世界観までたどり着くために
- 学問と学問を組み合わせて21世紀型の知の在り方を実践

vol.7 能のヒミツに分け入ることが新しい繋がり・
可能性を生む能楽研究所
教授 山中 玲子

日本最古の歌舞劇である能は、600年の歴史の中で、作品が自由に解釈され演出が変化し続けています。その変遷を追いつながら、能楽の研究にまい進しています。

- 能へのアプローチは誰でもいつでもどこからでも可能
- 演出の研究 実演者との協力
- 英語版能楽全書プロジェクト・文理融合研究など

vol.8 建築を通して社会の課題とその解決を考える

デザイン工学部建築学科
教授 岩佐 明彦

建築計画学の研究者として、仮設住宅でも前向きに住みこなそうとする、東日本大震災の被災者の方の暮らしを調査。より良い暮らしのためにできることを考察しています。

- 理論を追究するだけではなく広く社会に関わりたい
- 3年間にわたって仮設住宅で暮らす人の「住みこなし」を調査
- 社会の中で自分が行っていることを意識することが重要

vol.10 “越境”から“アンラーニング”へ続く学びから
新たな視野を手に入れよう経営学部経営学科
教授 長岡 健

学びとは、広い意味で人間として良くなっていく行為の総称。目指すべき方向を見定め、主体的に変わっていき続けるために、自身を見つめ直す「学び」を探究しています。

- 学習は手段ではない
- 敢えて不安定な状態で自分自身を揺さぶる
- 焦らない、短期的な効果を期待しない

社会をリードする「法政の研究ブランド」

本学では、これからの社会・世界のフロンランナーたる、魅力的で刺激的な研究が日々生み出されています。そんな法政ブランドの研究ストーリーを多くの方にお伝えしようと、「法政の研究ブランド」シリーズとして、大学ウェブサイトで紹介しています。2020年から始動した本シリーズは、これまでにvol.1～11を公開（動画3本、記事8本）。ここでは、その一部をご紹介します。今後も続々と新たな研究ストーリーを公開していく予定です。QRコードより詳細をご覧ください。



「法政の研究ブランド」一覧

動画による研究ストーリー

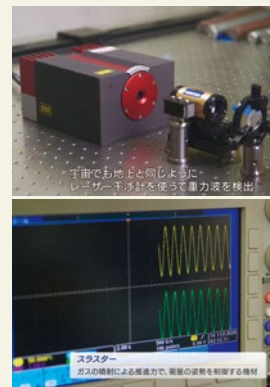
vol.6 宇宙の起源に迫る 重力波天文学

理工学部創生科学学科 教授 佐藤 修一



我々の住む地球、そして宇宙は、いつどのようにして誕生したのでしょうか。未だ謎に満ちています。重力波天文学を専門とする佐藤修一教授は、日々この大きな謎に挑んでいます。

謎を解く鍵の一つが、理論物理学者であるアルベルト・アインシュタインが「一般相対性理論」の中で予言した「重力波」という物理の存在です。重力波の観測を通じて、宇宙誕生の瞬間を知ることができるのではないかと期待されています。



vol.9 膨大な動画像データを処理する次世代の技術

理工学部応用情報工学科 准教授 周 金佳



科学技術の進んだ未来都市の構想では、私たちの身の回りには数億個規模のカメラが存在するようになるといわれています。一方、高画質で大量の映像情報を処理するには、膨大な電力消費が必要になるため、環境への負荷が増すことになります。

大量の情報処理と消費電力の削減を両立させるため、周金佳准教授はバッテリーレス・ワイヤレスでカメラを作動できる技術、そして超解像度の画質を保つ研究に取り組んでいます。



vol.11 持続可能な未来のためにIT技術を活用して健康な植物を育てる

生命科学部応用植物科学科 専任講師 鍵和田 聡



植物の病気は非常に多くの種類があるため、識別するのが困難でした。鍵和田聡専任講師はIT（情報技術）を使い、写真の映像から病気の種類を判別するという、新しい診断技術の開発に取り組んでいます。

専門機関に持ち込まなくても、スマートフォンなどで写真を撮るだけで、病気の種類を特定して的確な対処ができるようになるため、世界の農業生産や地球環境の維持に大きく貢献する技術になると期待されています。





© Larry Gumahad/MSF

HOSEI
Graduate Interview
卒業生
インタビュー

世界はつながっている。それを感じてもらうため、活動で知った共通点を発信していきたい

国境なき医師団 プロジェクト・コーディネーター

末藤 千翔さん

緊急性の高い医療ニーズに応えるため、独立・中立・公平な立場で医療・人道援助活動を行っている国際NGO「国境なき医師団」。その一員として、世界各地で活動している末藤千翔さんは、どの地域にもメディアでは報道されない「普通の暮らし」があり、世界はつながっていると言います。

このページでは、法政大学憲章の「自由を生き抜く実践知」を体現している本学の卒業生を紹介していきます。

イラクで展開中の緊急プロジェクトに従事

民間の非営利団体「国境なき医師団（MSF）」に参加して4年目を迎え、今年の5月中旬からイラクのバグダッドでプロジェクト・コーディネーターとして緊急プロジェクトに携わっています。

一時、中東で最高の医療水準を誇っていたイラクは、紛争で医療施設・体制が破壊されたところへ新型コロナウイルス感染症の蔓延が重なり、医療システムがひっ迫。MSFは現地の医療体制では治療の難しい、新型コロナウイルス感染症の重症患者を受け入れています。現在、55床の専用病棟が24時間稼働しており、当初の死亡率90%以上から、約60%が呼吸リハビリそして退院できるまでに状況が改善しました。また、今回のプロジェクトでは、患者さんや家族の精神面でのサポート、退院後のフォローアップなどにも力を入れています。



フィリピンのミンダナオ島マラウィでは、街宣車で感染症に関する啓蒙活動を行った(右端が末藤さん)。
© Gilbert G. Berdon/MSF

「医師団」という名称から、医師や看護師の活動というイメージが強いと思いますが、医療活動を展開するには、水や電気、通信網の確保、病院の建設、ドライバーや清掃員の採用、物資の調達など多くの作業が不可欠で、約半数が非医療従事者で構成されています。

プロジェクト・コーディネーターは活動地における責任者で、現地の役所や軍、警察との連携や交渉、治安や情勢、医療のニーズの変化の把握など必要な調整を担当します。MSFでは、セキュリティ確保の面からも、現地の人に受け入れてもらい、距離感を縮めることを重要視していて、私たちも積極的に街へ出かけ、市民と対話をしています。やはり最終的には人と人との関係、一緒に築き上げようという姿勢が大切だと思います。

海外の学生から受けた刺激が意識向上と行動の原動力に

高校3年の夏休みに英国のサマースクールに参加し、大学生から「ボラン



派遣留学先の米国カリフォルニア大学ディヴィス校にて(前列左端が末藤さん)。

ティアに参加して、マラリアの治療薬が入手できず、命を落とす人が今も絶えないという状況を変えるために、伝染病について学んでいる」と聞き、自分も問題意識を持って何かを学びたいと思いました。海外の大学にも興味があったので、派遣留学制度が充実している法政大学に進学しました。

大学1年次のサマースクール、3、4年次の派遣留学の際に、現地に出会った学生が朝から晩まで勉学に励み、目標を叶えるために本気で挑む姿を目にし、世界の本気を肌で感じました。

長谷川祐弘先生のゼミでは、国際協力分野で活躍されている方から貴重な話を聞いたほか、シンポジウムの計画・運営や議事録作成など実務に近い作業を経験することもできました。ボランティア活動をきっかけに受け入れていただいた国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）でのインターンでは、問題意識を学びだけで終わらせず、行動につなげたいという思いが強くなりました。経験者の中途採用が多いNGOに新卒で就職できたのは、学生時代に「できない」とは言わずに何でもやってみてみたことが大きかったと思います。

社会人1カ月目で実感「世界はつながっている」

大学卒業直前の2011年2月にマ

ケドニアに赴任した直後に、母国が東日本大震災で大変な状況になっているのを目にして、「私はここで何をしているんだろう」ともどかしさを感じ、落ち込んだことがあります。そんなとき、日本の状況を心配した現地の人々が声をかけてくれて、「世界はつながっている」と実感しました。外見や言語、信仰は異なっていますが、安心して生活を送りたい、より良い世界を次の世代に残したいという望みは皆、同じなのです。

シリアやイラクには、新聞で報道されるような一面もある一方で、平和を願い、ごく普通の生活を送っている人が大多数です。日本に比べると、紛争や飢餓、医療崩壊はどこか遠くで起きていることと思いがちです。そうした事象に外と中という線引きはなく、今回のパンデミックでは、日本でも移動や行動が制限され、医療崩壊に直面しています。これをきっかけに、世界の相違点よりも共通点に目を向け、今の自分に何ができるかを考えてもらえたらと思います。

接点を見いだせれば世界は広がり、考えは深まっていく

私が常に意識しているのは、より広い世界に目を向けることです。まずは、自分の周囲の空間から一歩外の世界に

踏み出してみる、目を向けてみる。そこで、それまでの空間、社会との接点を見いだせれば、世界は広がり、考えが深まっていくはずだ。

学びも同じで、行動を起こし、世界を少しずつ広げながら、自らの課題を見つけ、徹底的に追究し続けることが大切。自由な社会に生かされる一人として、その特権を自分なりの形で生かし、いかに社会に還元できるかを考える。それが私の責務であり、実践知だと考えています。

自分が本当にやりたいことに携われているので、今の仕事を大変だと思っただことは一度もありません。一人でも多くの人に世界のつながりを感じてもらい、よりよい社会づくりに貢献できるように、これからも活動を通じて知った共通点を発信していきます。

Suefuji Chika

1988年東京都生まれ。法政大学女子高等学校（当時）から法学部国際政治学科に進学。2011年3月に卒業後、日本の国際協力NGOに就職。国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）、パリ政治学院修士課程を経て、2018年、国境なき医師団に参加。これまでバングラデシュ、シリア、フィリピン、イラクで活動。





経済学とデータ分析で真実に迫る

経済学部経済学科 准教授

濱秋 純哉



経済学の魅力

人々は自分の行動をどの程度「損得」で決めているのでしょうか。全ての行動を「損得」だけで決めている人もいるかもしれませんが、他人に嫌われたりケチだと思われたりするのを避けるために、ほどほどにしている人もいます。経済学は、大ざっぱに言えば「損得」で人々の行動をどれだけ説明できるかを追求しています。経済学は、複雑な現実経済をなるべく単純化するために、多くの仮定を置いて人々の行動原理を抽出しようとしています。単純化を行っても、人々の行動を「損得」でうまく説明できることが多いのが経済学の魅力の一つです。中には、そんなことまで「損得」で決められているの?と驚くような結果が示されている研究もあります。私が専門と

する公共経済学の分野では、課税が人々の行動に及ぼす影響について多くのデータ分析が行われてきました。例えば、ヨーロッパで活躍するサッカー選手の移籍先の選択にその国の所得税（の最高税率）が影響を及ぼしていることや、遺産相続に対する課税は人々の死亡のタイミングまで変えることなどが明らかにされています。どちらも緻密なデータ分析に基づいて得られた結果で、世界的に権威のある雑誌に論文として掲載されました。また、経済学には「顕示選好」という概念があります。これは、人々の行動の結果には各人の「好み」が反映されるという考え方です。これに基づいて人々の行動の結果を分析すれば、その行動の背後にある好みを明らかにできることになります。先に紹介したサッカー選手の移籍先の選択や遺産相続に対する課税の研

究結果からは、人々（特に富裕層）がいかに強く課税から逃れたいと思っているかが読み取れます。人には多少なりとも他人からよく思われたいという気持ちがありますから、大つびらに「自分は課税から逃れたい」などとは言いません。むしろ、模範的な納税者であることをアピールしたいと思うのが人情でしょう。しかし、経済学に基づいてデータ分析を行うと、人々の「本当の」気持ちや考えがあまり出されることが多々あります。このように真実に冷徹に近付けることも、私にとっての経済学の魅力です。

ただし、経済学の魅力にとりつかれ過ぎると、日常生活では「嫌なヤツ」になっってしまう恐れがあるので注意が必要です。例えば、慈善団体への寄付などを通じた社会貢献に積極的な米国の大富豪を見て、本当は寄付に対する優遇税制に

よって納税額を減らすのが目的ではないかと勘繰ってしまうことがあります。しかし、その大富豪が自分と違って「良いヤツ」にすぎない可能性も完全には否定できません。当然ながら、経済学では説明の難しい行動を取る人々も世の中にはたくさんいますから、虚心坦懐に物事に向き合うことも重要だと感じています。

経済学への出会い

私が経済に興味を持ち始めたのは、小学校高学年から中学生にかけてだったと記憶しています。きっかけは1980年代から90年代初頭にかけて日本が経験した「バブル経済」の生成と崩壊でした。バブル崩壊までは、テレビのニュースで耳にする百貨店の売上、初詣の人数、株価などはいつも「過去最高」という枕詞と共に紹介される印象がありました。ところが、90年代に入ると急に経済に元気がなくなってしまうしました。当時の私には、何が起ったのかがはっきりとは認識できませんでした。ニュースで「バブル崩壊」という言葉がよく使われるようになり、何かとんでもないことが起きたことは分かりました。

私の祖父は当時経済雑誌を定期購読していたため、経済に詳しいに違いないと思います。「バブル」の意味を尋ねてみました。2回尋ねてみたのですが、祖父の返事はどちらも「泡のこと」でした。今でもこの回答についての祖父の真意は不明

ですが、子どもに難しい説明をしても理解できないだろうという祖父なりの配慮だったのかもしれません。

ニュースで聞く「バブル」が単なる泡の話だと思えなかった私は、自分で調べてみることにしました。当時はまだインターネットなどない時代だったので、調べるには新聞や本を読むしかありません。そこで最初に読んだのが、ちくま新書の『経済学を学ぶ』（岩田規久男著）という本です。中学生の私にとっては難しい本でしたが、価格の変化を通じてにんじんの需要と供給の一致が達成されるという説明を読み、にんじんの価格と取引量の決定をどのように理解できることに衝撃を受けました。他にも入門者向けの経済書を何冊か読んでみたところ、どうやらマネーサプライ（現在のマネーストック）というものがバブル経済に関係あるらしいことは何となく分かりましたが、多くの専門用語が理解できず、悔しい気持ちを感じました。この経験から、大学に入って経済学を本格的に学びたいと思う気持ちが徐々に芽生えました。

もし祖父が「バブル」の意味を丁寧に説明してくれていたなら、私はそれを自分で調べようとは思わず、今頃は別の道に進んでいたかもしれません。調べるきっかけをくれた祖父には感謝しています。

世代間資産移転から見る家族

私は10年ほど前から、生前贈与や遺産

相続（世代間資産移転）について研究しています。親子であっても、親が自分のことをどう思っているのか本当のところはよく分からないものです。しかし、世代間資産移転のデータ分析から明らかにできることは少なくありません。例えば日本では、自分の老後の面倒を見つづけた子に財産を残す傾向が強い一方、必ずしも経済的に不利な子に財産を多く残そうとはしないようです。また、子の世代が自分たちほど豊かな生活を送れないと予想する親ほど、財産を残すために多く貯蓄することもありました。このように世代間資産移転を通じた親子間のつながりを明らかにすることは、政府の経済政策の影響を検討する上でも重要な情報となります。

この他、相続税の租税回避についても研究を進めています。冒頭で紹介したように、課税は人々の行動に影響を与えます。特に、租税回避策にお金をかけられる富裕層にこの傾向が強いと考えられます。莫大な資産を持つ彼らは、海外への（一定期間の）移住や子の国籍変更など、あらゆる手段で相続税を回避しようとしています。データでこの実態を明らかにできれば、相続税が格差是正や税収確保にどれくらい有効なのか分かるはずです。

経済学とデータ分析で世代間資産移転をどこまで理解できるのか、今後も探求し続けたいです。



Hamaaki Junya

1980年石川県生まれ。2003年慶應義塾大学経済学部卒業。2010年東京大学大学院経済学研究科修了、博士（経済学）取得。内閣府経済社会総合研究所研究官、一橋大学大学院経済学研究科専任講師を経て、2014年4月より法政大学経済学部准教授。専門は公共経済学、応用計量経済学、研究テーマは家計行動のミクロ計量分析。編著に法政大学比較経済研究所 研究シリーズ34『少子高齢社会における世代間移転と家族』（2020年、日本評論社）。



デザインとエンジニアリングを 融合したメカニズムを探究

あらゆるメカニズムの「形・構造・動き」の関係性を探求し、デザインとエンジニアリングの融合を図っている山田泰之准教授。
さまざまな課題を解決するモノづくりにまい進しています。

デザイン工学部システムデザイン学科 准教授 山田 泰之



メカニズムはSDGsの
古くて新しいソリューション

専門はメカニズム（機構）、デザインエンジニアリングです。古くからある機械工学の一分野であるメカニズムを、ユーザーの視点に立ったデザインとエンジニアリングの双方から検討して、コンピュータや電子機器、電力などのエネルギーの消費に依存し過ぎることのない、シンプルな課題解決方法として提案することを目指しています。

このようなメカニズムでの課題解決方法は、電子デバイスやアクチュエーターを多用したソリューションよりも、構造を簡略化して耐久性も高く、高いリサイクル性や省エネルギーにつながることから、SDGs（持続可能な開発目標）の課題解決の一助としても貢献できる方法だと考えています。

人間中心のモノづくりは、古くは「人間工学」、今では「デザイン工学」「デザイン思考」「ヒューマンセンタードデザイン」など、さまざまな言葉で語られています。世界的には関心の高まりがうかがえる分野ですが、日本での取り組みはまだ緩やかです。社会問題の複雑多様化した昨今、さらに需要が高まるのはこれからだと推測しているので、自身もさらに成長しつつ、後進も育てていきます。

研究開発成果を世に送り出す 「社会実装」を実践

今後の大学研究・教育には、研究成果を実際に社会で使われるものにする、いわゆる「社会実装」をかなえること、およびそれができる人材を教育することとも必要と考えています。

それを痛感したのは「YACHAIKA」というハイヒールを開発したときでした。「疲れにくいハイヒール」と注目され、国際的なデザインコンテストの「ジェームズダイソンアワード」を受賞して、パリコレクションにも採用されるほどの高評価は得たのですが、市販には至りませんでした。商品を販売した経験がなく、半ば他人任せだったからです。その経験から、研究開発成果をより確実に社会実装するために、ベンチャー企業を設立し、会社経営や商品を販売することを実践しつつ学ぶことにしました。

デザイン工学部には、デザイン事務所や建築事務所を兼業している先生が少なくありません。実務を経験することが、大学での最先端の研究の社会実装につながり、さらには、より実践的な教育にも生かせるからでしょう。

メカニズムでの課題解決方法は、今後さまざまな分野でニーズが増すと確信しています。その一例が、上腕の作



学生時代に夢中になっていた学生フォーミュラで、設計製作したレースカーを走らせる前に整備点検している



用途に応じて配置を自由に改良できるようにデザインした研究室。学生でも簡単に扱えるように、部屋内の家具は、全て1つの工具だけで組み替え可能



写真1

腕の重さを感じさせない自重補償機構で上腕を支えるアシスト装置「TasKi」。ばねを使ったシンプルな構造なので、屋外でも雨を気にせずに長時間使える

業負担を軽減するアシスト装置TasKi（補助を目的とした道具）です。TasKiは、上腕を支えて負担を軽減することで、果樹園での農作業や保守点検作業など、腕を上げ続ける必要のある作業をアシストする装置です。すでに社会実装も始まっています（写真1）。

現在着目しているのが「子ども乗せ自転車」です。現状では、大人用の自転車にチャイルドシートを取り付けただけの構造になっているので、子どもにとつての安全性や乗りやすさが必ずしも優先されているとは言えません。運転する大人も、同乗する子どもも双方が安全で快適な新しい自転車のメカニズムを検討したいです。

他にも、工具がなくても簡単に組み立てられる家具など、メカニズムの工夫で課題解決を図るようなモノづくりを手掛けていきたいと考えています。

恩師から受けた教育の恩は学生に還元、潜在能力の開花を後押し

現代社会の複雑多様な課題の解決方法は、それに比例して複雑多様になる傾向にあります。そのような解決方法を考案して実現するには、多分野にまたがる知見と統合力が必要になります。幸いなことに、機械工学の新たな領域に携わるたびに、第一線で活躍する先生方から教えるを受ける機会に恵まれ

ました。学生フォーミュラに夢中になっていた学部生の頃には自動車工学を基礎から教わり、大学院では人間工学、ロボット工学やシステム設計について深く学びました。研究職を志すようになってからはソフトロボティクスや生物規範デザインの研究にも携わっています。そうして得てきた技術や知見は、自身の研究につながっています。

その恩は、教育者として学生の育成に注力することで、返していきたいと思っています。学生が持っている潜在能力を引き出し、育てて、社会に送り出す後押しをしながら「実践知」を広めていく。それが、教員としての私の役割だと思っています。

デザイン工学部システムデザイン学科の学生は、自主性が高く、自分のやりたいことに前向きに取り組む姿勢が見えるので、先行きが楽しみです。状況の変化に対応しながら、新しいものを作り出す「機動的柔軟性」を身に付けてほしいと願っています。



Yamada Yasuyuki

1986年三重県生まれ。慶應義塾大学理工学部機械工学科卒業。同大学大学院理工学研究科総合デザイン工学専攻前期博士課程修了、同研究科開放環境科学専攻後期博士課程修了。博士（工学）。日本学術振興会特別研究員、日産自動車、中央大学研究開発機構助教、中央大学理工学部精密機械工学科助教、インベリアルカレッジロンドンVisiting Prof.、東京電機大学システムデザイン工学部助教などを経て、2020年にデザイン工学部准教授に就任。現在に至る。2017年中央大学中村太郎教授とともに株式会社ソラリスを設立。取締役CTO（最高技術責任者）を務める。

意識的に英語を話す機会を設けながら、語学力を磨く活動を続けている英語研究会ESS（以下ESS）。

「ESSには、活動形態の異なる五つのセクションがあり、部員は自分のやりたい活動に応じて、いずれかのセクションに属しています」と概要を紹介してくれたのは、代表の高橋さん。セクションは、英語劇に取り組む「ドラマ」、弁論を行う「スピーチ」、自由に議論する「ディスカッション」、さまざまな角度から討論する「ディベート」、外国人のガイドや映画評論などを行う「リタラチャー」の5種類。日常の活動はセクションごとに行われています。「いずれのセクションも1年生が中心となって活動できるような体制を組んでいます。上級生は1年生が前向きに活動できるようにサポートしているのが、学年を越えて部員同士が温かい関係を築けています」と高橋さんは胸を張ります。

サークル内全体の交流の場にもなっているのが、年に2回開催される合宿。そこでの恒例行事が「レセテ」と呼ばれる、英語のスピーチの暗唱大会です。「初めて参加した夏合宿での夏レセテの経験が、強烈に印象に残っています」と語るのは山北さん。「その時は、『I have a

英語研究会ESS

英語劇からスピーチまで「話す経験」を積み重ねて自身の英語力を磨く

クラブ・サークル

※今回はオンラインで取材しています

上段左から、高橋颯良さん（キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科3年／代表）、渭川建さん（文学部英文学科3年）、下段、山北康生さん（国際文化学部国際文化学科3年）



夏合宿を境として、1年生の部員はセクションの希望を決めて本格的な活動を始めることになる（写真は2019年に開催した夏合宿）



2020年に行われた春合宿での集合写真（写真撮影時のみマスクを外しています）



2021年の春合宿はオンライン開催。例年は対面で行う英語競技をオンライン上でできるように工夫して、4日間のリモート合宿をやり遂げた

dream.（私には夢がある）」で有名なキング牧師のスピーチを暗唱しました。先輩方の手を借りて幾度も練習を繰り返して、自分でも驚くほど熱中して取り組んだので、入賞できた時は感動しました。その時の思いが忘れられなくてスピーチセクションでの活動を選んだほどです」と思い出を振り返ります。

セクションごとにスピーチや討論大会などにも積極的に参加。全国大会の優勝者なども輩出しています。他大学のESSサークルとの交流も良い刺激となっており、モチベーション維持にもつながっています。

2020年以降は新型コロナウイルス感染症の影響で、行動に制約が生じているものの、ウェブ会議ツールを利用したオンライン企画を増やして、活動の幅を広げています。

「これから新入部員が本格的に活動に加わってくるので、できたら対面で活動したい思いがあります。その場にいることで味わえる緊張感や感動を、先輩たちにも体験してもらいたいの」と語る渭川（いがわ）さん。「ただ、オンライン活動しかできなくても、工夫の余地はあると思っています。どうすれば楽しめるのか、皆で盛り上がるのかを考えながら、前向きに活動していきたい」と明るく語ります。

現代の家族の在り方について探究している斎藤嘉孝教授ゼミ。学生たちは、自身の家族観から興味を広げて個々に研究に取り組んでいます。「幼少期の親子関係が、子どもの性格形成にどのような影響を及ぼすのかを考察しています」と語るのは菅野さん。「親に対する満足度が高ければ自己肯定感も高まるのかという仮説を立て、調べています。兄弟姉妹を含めて考察することも今は検討中です」と興味を広げます。

家族というテーマは、身近で語りやすいだけに、客観的な視点が重要です。アンケート調査などでデータを収集し、科学的根拠に基づいて解析する実証性を大切にしています。「学生の意見は新鮮で気付けられることも多いので、フランクな交流の機会も大切にしています」と語る斎藤教授。そんな師の姿に信頼を寄せる鈴木さんは、「家族や恋愛など、これまで学んだことのないテーマを、深掘りして勉強できることが、このゼミの魅力です。どのような意見を述べても肯定して捉えてくれるので、のびのびと意見交換を楽しめます。自分のキャリアデザインにも生かしたい」と語ります。

親子関係が結婚観に及ぼす影響を調べている古屋さんも、ゼミでの学びを自分の成長へとつなげています。

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 斎藤嘉孝教授ゼミ



お互いを尊重した、活発な意見交換の中で家族の在り方を考える

ゼミナール・研究室

上段左から、斎藤嘉孝教授、菅野紗衣さん、森川風香さん、下段左から、鈴木璃生さん、高橋李佳さん、古屋快晟さん ※全員、キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科4年

※今回はオンラインで取材しています



2021年度のゼミのスタイル。口の字に机を並べたディスカッション形式のゼミのときには、アクリル板を設置して感染対策を講じている



4年生は、プレゼンテーション方式で成果を途中報告しながら、卒業論文に向けて研究を深めていく



2021年度の斎藤ゼミ生。通常、学年ごとに分かれて研究を進めているが、定期的に3・4年合同ゼミを開催することで、交流の機会を増やしている

「さまざまな事例に触れ、家族の在り方について考えてきた中で、多様性を大切にしたいと感じるようになりました。両親に感謝する気持ちも強くなったので、親孝行もしていきたい」と語ります。

コロナ禍の影響により、現在のゼミ活動は、オンラインと対面を併用して進めています。2021年の春合宿は、ウェブ会議ツールを活用してオンラインで実施。授業は状況に合わせて対面に戻りつつありますが、パーティションで区切るなど、しっかりと感染対策を講じています。

「オンライン対応にしたことで、作業効率が上がりました」と、思わぬ効果に喜ぶのは、家族と友達付き合いの因果関係を調べているという高橋さん。「アンケート調査は、ネットサービスを利用して実施することにしたのです。用紙を配布して回収する従来の方法より、集計作業がとても楽になりました」と笑顔を見せます。その意見にうなずいた森川さんは「ゼミ活動と就職活動を両立しやすくなりました。会社説明会や面接もオンライン化で移動時間が不要になり、時間が有効活用できています」と語りつつも、「その反面、対面の良さを再認識しています。顔を見て談笑するだけで心強く、安心するのです」とコロナの収束を願います。

THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。
そんな伝統ある40体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介しします。



バスケットボール部

撮影場所：つくばカピオ
(茨城県つくば市)
撮 影：鈴木 晃平
(スポーツ法政新聞会)
集合写真：バスケットボール部提供

バスケットボール部は、1937年5月に創部されました。男子部の戦績は、1977年に関東大学リーグ戦など主要大会で優勝し、三冠を達成。2007年には全日本学生バスケットボール選手権大会(現・全日本大学バスケットボール選手権大会、通称インカレ)で準優勝しました。2015年にプロリーグ[B.LEAGUE(Bリーグ)]が誕生し、近年ではプロを目指す選手も増えてきています。現在は関東リーグ2部に所属し、2部リーグ優勝、1部復帰、インカレ優勝を目標に活動しています。「学生主体」を基本理念とし、選手とスタッフ自らが考えて行動し、日々の練習に励んでいます。女子部は、現在関東リーグ3部で活躍しています。

Message

「自由な学風」の下で、自ら考え、
行動する学生の声を届けます。

諦めない走りを

社会学部社会学科4年

Kamata Kouki

鎌田 航生 さん

私は、父がマスターズ陸上に挑戦していた影響もあって、中学1年生から陸上競技を始めました。父から特に専門的な指導を受けていたわけではありませんが、ランニング・ドリル(走りの基本を身に付けるためのトレーニング)などのアドバイスをもらったりしていました。

法政大学第一高等学校に進学してから走り続けていたのですが、高校3年生の時に交通事故に遭い、足を負傷してしまいました。高校最後の全国高等学校駅伝競走大会はどうしても走れたかったのですが、周りに支えられながらリハビリに励み、どうにか出場を果たすことができました。その時、逆境でも諦めないことで生まれる力を学びました。

ありがたいことに、東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)は1年次から走る機会に恵まれました。初出場で8区を走り、初めて襷を受け取った時は、とにかく緊張したことを覚えています。

2年次は2区を任されたのですが区間18位という結果に終わり、悔しい思いだけが残りました。次こそリベンジしたいという思いで臨んだ2021年の箱根駅伝では、スタートの1区を走り、区間賞を取

ることができました。思いがけないことだったので自分でも驚きましたが、仲間からも祝福されて、とてもうれしかったです。やはり周りからの応援の力は大きく、今まで走り続けてきて良かったと実感しました。

この経験で自信が付き、3月に行われた「第24回日本学生ハーフマラソン選手権大会」でも優勝し、「FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)」への出場権を得ることができました。

コロナ禍で行動が制約される中での練習は、何をすべきかを自分で考えていかなければなりません。主

体性を持つ大切さを感じながら、日々の練習に取り組んでいます。

陸上に全力を注ぎながらも、私は学業もおろそかにしたくありません。大会や合宿に参加するため授業に出席できなかった時は、自宅学習で追い付く努力を心掛けています。

次回の箱根駅伝は、学生最後の大会になります。次こそはシード権を獲得して、後輩たちにつなげていきたいです。個人的には、2年次に味わった悔しさのリベンジとして、もう一度2区を走りきり、日本人トップを狙いたいと思っています。



※FISUワールドユニバーシティゲームズ

「学生のためのオリンピック」と呼ばれる国際総合競技大会(旧・ユニバーシアード競技大会)。
2021年夏に中国・成都での開催を予定していた第31回夏季大会はコロナ禍により延期が決定

後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

「支部長会議」報告



後援会支部委員
諏訪部 真理 (千佳／理工学部)

6月5日(土)、オンラインにて支部長会議が行われました。

清水伸行2020年度後援会会長のあいさつに続き、大学の小澤雄司常務理事からあいさつと大学の近況報告をいただきました。

次に議長の清水会長から、ウェブサイトで実施した2021年度後援会総会の電子表決の結果報告があり、2020年度事業・決算報告(案)、2021年度予算・事業計画(案)、2021年度役員選出の全てが承認されました。

議事においては、今年度はコロナ禍でも「支部総会・父母懇談会」が円滑に開催できるように、オンライン(Zoom)を用いた新たな取り組みについて説明がありました。また、支部出身者に向けた奨学金制度の創設について、後援会

事務局の関口広之進事務局長より説明がありました。

会議の後半では、2021年度「新生父母の集い」の開催状況の報告がありました。各支部からは、今後の活動予定や、支部活動の役員選出で苦労されていることなどの報告があり、今後継続して議論していくことになりました。

支部長会議は、友利方彦後援会新会長のあいさつで、締めくくられました。これからも後援会は「子どもの母校は我が母校」の mottoの下、大学に協力し、学生が安心して学校生活が送れるよう支援してまいります。引き続き、ご理解ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

「後援会役員研修会」報告



後援会副会長
相澤 さえ子 (俊輔／情報科学部)

6月19日(土)、市ヶ谷キャンパス大内山校舎7階Y702教室にて、ハイフレックス設備を利用し、会場・オンライン参加併用による後援会役員研修会が開催されました。この役員研修会は毎年1回、法政大学の教育理念や大学が目指す役割についての理解を目的に、大学の教職員の方に講師をお願いし、ご講演をいただいております。

今年度は、友利方彦後援会会長のあいさつに続き、「Withコロナ、Postコロナの法政大学」というテーマで、廣瀬克哉新総長にご講演いただきました。2020年度を失われた学年にしないため、コロナ禍においても学生がオンラインで授業を受けられるよう整備し、感染状況でリスクをレベル分けし、機敏に対応しながら対面授業の再開を進めるなど、大学の取り組みを丁寧に詳しくご説明いただきました。



※ハイフレックス設備：対面授業をオンライン授業として同時配信する、ハイブリッド型授業用の設備

「茨城県支部 新生父母の集い」報告



茨城県支部長
原恵三子 (祐介／経営学部)

5月23日(日)、水戸京成ホテルにて「新生父母の集い」を2年ぶりに開催し、1・2年生の保護者の皆さまに会場とオンラインの両方でご参加いただきました。

小金井事務部学務課の糸井史博主任からは、「ウィズコロナ時代の大学における授業、学生生活について」と題するオンライン講演がありました。参加者アンケートでは、大学の状況や対面授業への前向きな姿勢が分かって安堵したという感想が多く見受けられました。続く懇談会では、関心事として「コロナ禍での生活対応(メンタル面も含む)」「コミュニケーションの取り



方」「大学の授業、単位修得、将来の進路(就職)などが挙げられ、人とのつながりがこの上なく大切である

との共通見解に至りました。

今回の集いを通して、保護者我が子を深く思うのと同様に、大学に対しても強い思いを抱いていることを認識しました。今後も「子どもの母校は我が母校」の mottoの下、一番の応援団として活動を進めてまいります。創意工夫をしつつ、キャンパス見学会、大学祭、六大学野球や駅伝の応援などを実現させたいと思います。

新役員も無事選出でき、今後の活動がより活発になることを期待しています。大学憲章の「自由を生き抜く実践知」の言葉に内包されているとおり、学生の皆さんには、しなやかに世の中を生き抜く力、自由なスピリットを礎とし、さまざまな体験を通して精神性の高い学びを獲得していただきたいと願っています。創造性と課題に向き合う力が、危機をチャンスに変える実践知につながると信じます。学生の皆さんが豊かな人生を歩めるよう、茨城県支部後援会は応援してまいります。

「栃木県支部 新生父母の集い」報告



栃木県支部長
高山 友樹 (雅貴／法学部)

栃木県支部では、5月23日(日)に宇都宮市内のホテルニューイタヤで「新生父母の集い」を開催いたしました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止となったことから、2年生の父母も含め、1・2年生合同での開催となりました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、プログラムの変更、より広い会場への変更、会場参加とオンライン参加の併用開催など、例年とは大きく異なった父母の集いとなりました。

今回の参加者は、新生父母が15人(会場参加9人、オンライン参加6人)、2年生父母が13人(会場参加9人、オンライン参加4人)の計28人でした。栃木県では状況が落ち着いているとはいえ、コロナ禍での開催であり、参加者は例年より少なくなるだろうと思っはいましたが、予想以上に少なかったことに驚きました。

参加者の皆さまは、初めは緊張気味でしたが、学務部学務課の伊藤賢治課長の講演に熱心に耳を傾け、質疑応答では予定時間をオーバーするくら

い多くの質問が出ました。その後の懇談も、和やかな雰囲気活発な意見交換が行われました。

準備の段階から手探りの上に、2学年合同での開催とあって、支部役員全員で準備、運営に当たりました。当日スムーズに進行できたのは、役員一人一人がその場その場で、臨機応変に対応してくださった成果だと思っています。これからのウィズコロナ時代に、役員同士が信頼関係を持って活動し、会員全員が安心して参加し、情報交換を行える場となるように考えていきたいと思っています。



2021年度 後援会の主な事業

2021年度(2021年4月～2022年3月)の主な事業計画は以下のとおりです。

事業項目		主な事業
1.父母懇談会※1	支部	・36支部で「支部総会・父母懇談会」を開催 7月3日(土)～8月29日(日)
	首都圏	・東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の父母を対象に3キャンパスで開催 市ヶ谷キャンパス 10月3日(日) 小金井キャンパス 10月10日(日) 多摩キャンパス 10月9日(土)
2.後援会活動の活性化と適正化		・各種会議へ参加※1 ・後援会活動の活性化、適正化に向けた討議
3.支部における諸活動(任意)※1		・新入生父母の集い ・キャンパス見学、会員相互の親睦を図るための活動の企画・実施 ・支部による学生課外活動の支援
4.学生・大学への助成		・新型コロナウイルス感染症、自然災害などにおける学生支援 ・経済的困窮学生のための支援 ・広報活動などへの補助 ・その他、学生・大学活動への助成
5.広報活動		・広報誌「法政」掲載の「後援会だより」、後援会ウェブサイトの活用 ・スポーツや文化活動の情報発信 ・「会員のための大学ガイドブック」の作成
6.大学関係者との連携強化※1		・大学との各種懇談会の実施 ・校友会との相互連携
7.法政スポーツコミュニティー(HSC)・学生支援※2		・学生スポーツの応援、文化系学生の課外活動のサポート
8.その他※1		・対外組織との連携

※1 2021年度は、新型コロナウイルス感染症などの拡大状況により、活動内容や開催方法を都度判断する。
 ※2 各種団体の応援ガイドラインなどに基づきサポートを行う。

2021年度 法政大学後援会運営委員



前列左から西山広二郎副会長、相澤さえ子副会長、友利方彦会長、諏訪部真理副会長、石井亘副会長
 後列左から滝沢かおり総務、市瀬恵美子総務、小林こずえ総務、浅見佐亨総務、鯨岡光男総務、松崎浩司総務、白鳥高総務



法政大学後援会事務局

〒102-0073
 東京都千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎4F
 TEL：03-3264-9350
 FAX：03-3264-9367
 E-mail：koenkai@hosei.ac.jp

後援会ウェブサイト
<https://www.hosei-koenkai.org/>



2021年度後援会総会 電子表決結果のご報告

2021年5月21日(金)～5月31日(月)に、後援会ウェブサイト上で2021年度後援会総会の電子表決を行いました。以下の全ての議案において、行使された議決権の賛成が半数を上回り、2021年6月5日(土)付けにて可決・承認されましたことをご報告いたします。議案の内容は、後援会ウェブサイトに掲載しています。

※電子表決が行われない場合は、議長に一任として取り扱いとします。

【議案】

- ・第1号議案「2020年度事業・決算報告(案)」
- ・第2号議案「2021年度予算(案)」
- ・第3号議案「2021年度事業計画(案)」
- ・第4号議案「2021年度役員選出」

後援会ウェブサイト
<https://www.hosei-koenkai.org/>



キャリアセンター職員による会員向けオンデマンド動画配信

例年の父母懇談会で、会員の皆さまにご聴講、ご参加いただいておりますプログラム、大学職員による「就職状況」等に関する説明を今年度もオンラインにて公開しております。

■「就職状況」等に関する説明(資料・動画)

閲覧、視聴には、後援会ウェブサイトの会員限定特設ページにアクセスし、IDとパスワードの入力が必要です。
<https://www.hosei-koenkai.org/members>



広島県支部長
 藤井克彦(健一郎/理工学部)

「広島県支部 新入生父母の集い」報告

広島県支部では5月23日(日)、オンライン参加による「新2年生・新入生父母の集い」を開催しました。当初は、会場・オンライン参加併用開催の予定でしたが、広島県に新型コロナウイルス感染症拡大防止の緊急事態宣言が出されたため、支部役員で検討の結果、会場参加を断念し、オンライン参加のみの実施としました。

昨年度は、コロナ禍で新入生父母の集いをはじめ全ての行事が中止となり、現新2年生の父母との交流が全くできない状況だったため、オンラインとはいい交流を実現できたのは大変良かったです。今回、新2年生6人、新入生7



人、計13人の父母が参加しました。オンライン開催は初めてで、IT機器操作にも不慣れのため、私を含め支部役員の一部は会場のホテルセンチュリー21広島に参集し、会を運営しました。また、後援会事務局が手配くださったIT機器業者のサポートもあり、支障なくオンラインで開催できました。

社会学部事務課の平田雄大主任(当時)による講演「ウィズコロナ時代の大学における授業、学生生活について」の後、支部役員の自己紹介があり、新2年生・新入生の父母からはお子さんの学生生活の様子をお話しいただきました。コロナ禍でオンライン授業が主となるなど、通常のキャンパスライフが送れず、大変な苦労をされていることが分かりました。

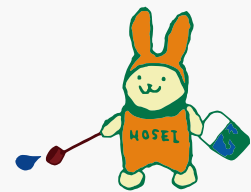
今後も後援会活動を通じて会員の皆さまと交流を図ってまいりたいと思います。

校友会だより

一般社団法人法政大学校友会(以下、校友会)は、「法政ネットワーク」強化により校友憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。



2021年4月にリニューアルした校友会ウェブサイト。上がPC、下がスマートフォンのトップページ。



校友会ウェブサイト



校友会の「デジタル化」推進

校友会では、2020年度からデジタル化の推進に取り組んでいます。今回はその内容をご紹介します。

ウェブサイトの全面リニューアル

校友会には20〜90代と幅広い世代の卒業生が関わっています。そこで、全ての世代にとって見やすく、情報を収集しやすいウェブサイトとなるよう、全面リニューアルを行いました。新ウェブサイトでは、次のような多彩なコンテンツを定期的に発信しています。・校友会からのお知らせ

- ・3大イベント、校友会が運営する事業・サービスの紹介
- ・パートナー組織の紹介、お知らせ
- ・校友会報「ORANGE JOURNAL AL」(バックナンバーも公開)
- ・20〜30代の卒業生のための「法政オレンジコミュニティ」のイベント情報
- ・多様な分野で活躍する卒業生の紹介
- ・卒業生が経営するお店の情報「法政オレンジMAP」
- ・ぜひ、卒業生やパートナー組織の情報の収集・発信に、ご活用ください。

校友会「公式アプリ」の導入



校友会「公式アプリ」のイメージ画面
※App store、Google playストアで「法政大学校友会」と検索するとダウンロードができます。



校友会「公式アプリ」のダウンロードサイト

校友会「公式アプリ」を2021年4月にリリースしました。次のような機能がありますので、ぜひご利用ください。

①電子会員証
校友会の終身会員となった卒業生には、プラスチック製のカード型の会員証をお渡ししています。公式アプリでは、スマートフォン上で電子会員証(8月に実装予定)を表示させることができます。また、会員証を携帯する必要がなくなります。

②校友会の最新情報をプッシュ通知
校友会ウェブサイトで発信する情報、会報「ORANGE JOURNAL」のデジタル版などを見ることができ、他、「法政オレンジMAP」の掲載店舗の検索やSNSとの連携も可能です。また、卒業生の属性(出身学部、地域など)に応じて、プッシュ通知が届きます。



HOSEI ミュージアム
HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

江戸東京研究センター(EToS)特別展示 江戸と東京との連続性

「文理の壁を越えて、現代的意味を追究」

戦前から学術界や社会に大きな影響を与えてきた本学の江戸文化研究は、2000年代に入ってから文系と理系の二つの研究機関が推進してきました。2018年1月には、文部科学省私立大学研究ブランディング事業の一環として両者の連携拠点となる「江戸東京研究センター(EToS)」を設置。近世以前の江戸と近代以降の東京の文化的、空間的な連続に着目し、持続可能な地球社会を構築する方法や理論を導き出す研究活動を展開し、大きな成果を挙げています。今回、その5年間の取り組みの集大成として、「人・場所・物語」Intangibleなもので継承する江戸東京のアイデンティティをテーマにEToS特別展を開催します。この特別展は、HOSEIミュージアム初となる4カ所同時展示で、文理融合を掲

げるEToSらしく、文系に多い資料を中心とした展示と、理系(特に建築系)に多い模型などの立体物展示を織り交ぜた構成となっています。Intangibleとは、「無形」を意味する言葉です。大火、天災、戦争、開発によって建造物などの「有形物」は失われても、江戸東京のアイデンティティは、地形や人の営み、つながりといった「無形物」に残され、今に引き継がれています。この特別展では、いくつもの時代の層が積み重なった上に、今が、そして未来があることを意識してもらえよう、そうした「無形物」の記録や再現に焦点を当てています。

第1会場の九段北校舎1階ミュージアム・コアでは、数年しか存在しなかった水辺の能舞台と江戸初期の芝居町の復元CGや模型など、江戸東京の「水都」の側面にフォーカス。第2会場のポアンナード・タワー14階博物館展示室には、近世・近代の人の営みや暮らしを知ることで、名所や年中行事を描いた絵画が展示されます。HOSEIミュージアムの市ヶ谷サテライトである第3会場のポアンナード・タワー26階ホワイエには、近代から現代の江戸東京のアイデンティティを物語る長屋、旅館、銭湯の図面や模型などが並び、同じく市ヶ谷サテライトの第4会場の外濠校舎6階展示スペースには、人のつながりを残す／生む住宅地や商店街の再生・再開発プランが展示されます。市ヶ谷キャンパス界隈を歩きながら4会場を回れば、昔も今も、そして将来も、都市の主役は「人」であると感ずることでしょう。



1



2



3

江戸東京研究センター特別展示

<人・場所・物語>—“Intangible”なもので継承する
江戸東京のアイデンティティ

場所：市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階ほか

期間：9月7日～10月3日(予定)

一部会場は9月30日まで

詳細：HOSEIミュージアムウェブサイト

新型コロナウイルス感染症の影響等により、日程や内容は変更になる可能性があります。詳しくは上記ウェブサイトをご確認ください。



1 CGで再現した江戸城の水舞台(九段北校舎1階ミュージアム・コアに展示予定)

2 『東京名所三十六戯撰』の「高なわ」には、2020年末に発掘された高輪築堤が描かれている(ポアンナード・タワー14階博物館展示室に展示予定)

3 1904年から2016年まで学生下宿、旅館として営業していた東京・本郷の朝陽館本家。模型は学生が製作(市ヶ谷サテライト／ポアンナード・タワー26階に展示予定)



「法政大学懸賞論文」 「デジタルコンテンツ・コンテスト」募集

学生の研究活動を奨励し、論理的記述能力の向上を図ることを目的とした「法政大学懸賞論文」、デジタル技術を駆使してアイデアやメッセージを視覚的に表現する「デジタルコンテンツ・コンテスト」の本年度の募集要項を公開しました。

【応募期間】
法政大学懸賞論文：
9月27日(月)～10月4日(月)
デジタルコンテンツ・コンテスト：
9月17日(金)～10月5日(火)



法政大学懸賞論文



デジタルコンテンツ・コンテスト



東京六大学準硬式野球春季リーグ戦の 完全優勝をはじめ、準硬式野球部が大活躍

準硬式野球部は、5月16日(日)に行われた「東京六大学準硬式野球春季リーグ戦」にて対東京大学2回戦を勝利し、中止となった昨春を除き5季ぶり48度目の完全優勝を果たしました。続いて5月30日(日)に開催された「東京六大学準硬式野球木村杯新人戦」でも、立教大学との決勝戦を制して優勝を飾り、リーグ戦、新人戦の二冠を達成しました。



(写真提供:スポーツ法政新聞会)

6月5日(土)には、春季リーグの完全優勝で出場権を得た「全日本大会出場予選会」が開催され、日本大学と対戦。鈴木歩夢選手(社会学部2年)が劇的なサヨナラ本塁打を放ち、全日本大会本戦出場も決めました。



関東学生剣道選手権大会にて、 男女ともに準優勝を飾る

5月13日(木)に開催された「第53回関東女子学生剣道選手権大会」にて、柿元冴月選手(法学部2年)が準優勝に輝きました。さらに、5月19日(水)に開催された「第67回関東学生剣道選手権大会」では横藤竜平選手(文学部4年)も準優勝を飾り、男女ともに好成績を収めました。今後も剣道部の活躍にご期待ください。



過去開催時の様子

「法政フェア」は、卒業生はもちろん、ご家族やご友人と一緒に学園祭気分でお楽しみいただけるイベントです。2021年は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、オンラインで実施します。おうちでも楽しめる企画を検討中ですので、ぜひご覧ください。詳細は決定次第、大学ウェブサイトおよび法政フェアFacebookページに随時掲載していきます。

★大学ウェブサイトでも過去開催時の写真もご覧いただけます。
<https://www.hosei.ac.jp/hosei/renkei/orangenet/fair/>



法政フェアについてのお問い合わせ先
卒業生・後援会連携室
☎03-3264-4924
(平日9:00～11:30、12:30～17:00)
E-mail: koyu@hosei.ac.jp



「チーム対抗! 運動しながら素敵な街に!」を実施

5月15日(土)、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)主催で「チーム対抗! 運動しながら素敵な街に!」を実施しました。

コロナ禍で外出が減り、体を動かす機会や人と会って交流できる機会が減少していることを鑑みて、掃除をしながら運動や学生同士の交流もできる企画となり、27人の学生が参加しました。ルールを工夫してゲーム要素も取り入れたことで、限られた時間内で広い範囲を清掃できるようになり、参加者同士には良い交流が生まれました。



現代福祉学部のゼミ生らが多摩地域交流センター と共同で高齢者のワクチン接種予約を支援

5月27日(木)、現代福祉学部福祉コミュニティ学科保井美樹・今井裕久ゼミと多摩地域交流センターに所属する学生11人の協力のもと、若葉台住宅地(相模原市緑区)の住人らのワクチン接種の予約を支援しました。同ゼミでは、2019年から同住宅地で住民アンケートや社会実験などの研究活動を開始。その縁で打診があり、インターネット利用が困難な高齢者をサポートするために、学生らが応援に駆け付けました。

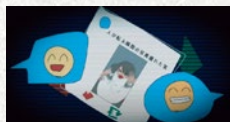
現地で2人、リモートで9人が作業を実施し、代行依頼のあった34人全員の予約を達成しました。



キャリアデザイン学部の学生が「地域発デジタルコンテンツ」で総務大臣奨励賞を受賞

総務省が主催する「地域発デジタルコンテンツ」にて、キャリアデザイン学部3年の小野日菜さんが手掛けた作品「身近なSNSトラブルを防ごう」が、総務大臣奨励賞を受賞しました。

「地域発デジタルコンテンツ」は、クリエイターの育成や作品発表の場の提供、地域からの情報発信などを目的としたデジタルコンテンツに関するコンテストです。今年度は全国で8作品が最上位の総務大臣奨励賞を受賞し、小野さんの作品はその一つに選出されました。



「法政大学新型コロナウイルス感染防止の取り組み～えこびんからの10個のお願い～」リーフレットを作成



リーフレット

本学では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に対する意識を高め、安全かつ充実した学生生活を送ってほしいと願って、「法政大学新型コロナウイルス感染防止の取り組み～えこびんからの10個のお願い～」と題したリーフレットを作成し、大学ウェブサイトに掲載しました。

本学の感染拡大防止策を紹介するとともにコロナ禍での大学生活で、特に注意してほしい点をまとめています。

今後も、学生の皆さんと共に教職員一丸となって安心してキャンパスライフを送ってもらえるように感染対策に努めてまいります。

【えこびんからの10個のお願い】

1. 登下校時・キャンパス内でのマスクの着用
2. 検温の徹底
3. 消毒・手洗い
4. ソーシャルディスタンス
5. 食事時の会話および大人数での会食禁止
6. 対面授業の受講ルールの遵守
7. 体調不良時の登校自粛
8. 法政大学HPおよびHoppiiの掲載情報の確認
9. オンライン授業受講のための「開放スペース」の利用
10. 換気のご協力



天津外国語大学(中国)との 第6回オンライン学生交流会を開催

6月11日(金)、中国の天津外国語大学との第6回オンライン学生交流会を開催しました。毎回さまざまな学部の方が、学年を問わず参加しています。

今回のテーマは「日本の学生のはやりと中国の学生のはやりについて」。学生たちの間ではやっている事柄を対象として、食べ物やアニメ、文化などのジャンルで日本と中国それぞれのトレンド事情を語り合いました。



2021年度大学祭日程

2021年度の各キャンパスの大学祭日程は下記の通りです。
※下記は予定であり、変更の可能性もあります。

	市ヶ谷 法政祭	多摩 法政祭	小金井 法政小金井祭
準 備	10月27日(水) 3時限以降休講	10月15日(金) 3時限以降休講	10月27日(水) 全時限休講
大学祭	10月28日(木) ～10月31日(日)	10月16日(土)・ 17日(日)	10月28日(木) ～10月30日(土)



2021年度本学独自の 奨学金の採否結果を発表

2021年度の本学独自の奨学金(新・法政大学100周年記念奨学金、法政大学学友会奨学金、大成建設株式会社奨学金、株式会社橙青奨学金、株式会社エイチ・ユー奨学金等)の採否結果が8月下旬に発表されます。申請された方は、法政大学情報ポータルでご確認ください。

採用期間は1年間で、年額を2回に分けて給付します。8月下旬と12月下旬に申請の口座に振り込み予定です。

この奨学金は返済不要の給付型ですが、2021年度中に休学、退学、除籍などの学籍異動があった場合は、返還の義務が生じます。また今年度の採否を問わず、毎年申請が可能です。2022年度の申請時期は2022年6月上旬を予定しています。



「2022大学案内・入試ガイド」と 15学部の「学部紹介パンフレット」が完成

「2022大学案内・入試ガイド」と本学全15学部の「学部紹介パンフレット」が完成しました。全国で実施する進学相談会などで配布するほか、ウェブ上でもご確認いただけます。

法政大学入試情報サイト

法政 入試

検索

※一部パンフレットはデジタル版のみ作成しています。



『H-Line』2021を発行

大学の各種データを掲載した学校法人法政大学案内『H-Line』2021(A5判64ページ)を発行しました。本冊子は主に学外・一般の方に配布されます。



本学専任教職員の最近の著書、編纂書、訳書をご紹介します。

BOOKS



法政大学イノベーション・マネジメント
研究センター叢書20

日本の企業間取引 市場性と組織性の歴史構造

19世紀から現在に至るまでの100年以上にわたる歴史の中で、日本企業の企業間取引関係は、どのように形成され、どのように展開されてきたのか——。その特殊性と普遍性を「市場性と組織性の絡み合い」という視点に立って、歴史、日米比較、現状から分析する。

金 容 度 著
経営学部市場経営学科 教授
出版社：有斐閣
発 行：2021年3月



地域と世界をつなぐ SDGsの教育学

自分たちの地域のことを、他の人に英語でどのように伝えるか。本書では、小学校英語とビデオレターという二つのツールを用いた異文化理解と交流の教育理論と実践の過程をまとめている。地域と密着した取り組みは、教科の目標や地域の枠を越え、より大きなSDGsという目標とのつながりをつくる活動といえる。執筆者それぞれの経験为例に、具体的な成果と課題を提示する。

寺崎 里水、坂本 旬 編著
キャリアデザイン学部
キャリアデザイン学科 教授

出版社：法政大学出版局
発 行：2021年2月

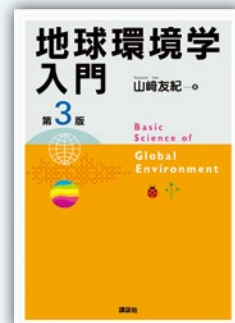


最後の文人 石川淳の世界

今、なぜ石川淳なのか。この孤高の作家を読み解くキーワードは「自由」。古今東西の書物世界を軽快な「精神の運動」で往還した石川の姿勢は知的自由の体現だった。石川作品には不自由に抗する不服従の精神が刻まれている。計5人の識者の共著による解説を通じ、その作品と「絶対自由」の世界に誘う。

小林 ふみ子
文学部日本文学科 教授
田中 優子 名誉教授 他3名著

出版社：集英社
発 行：2021年4月



地球環境学入門 第3版

フルカラーのイラストと分かりやすい解説で知られる教科書の改訂版。人口統計学、エネルギー資源、プラスチックの生産と廃棄、食品ロス、グローバルな取り組みなど、新しい話題を盛り込み、より時代に即した内容が充実。高校教科書レベル以上の化学・生物の知識がなくても、自然環境や地球環境の基本的事項を読み解ける書。

山崎 友紀 著
経済学部経済学科 教授

出版社：講談社
発 行：2020年12月

※日外アソシエーツ 図書内容情報BookPlusを参照

HOSEI 8・9月号

令和3年8月1日発行
第48巻第6号（通巻725号）

発行 法政大学 総長室 広報課
〒102-8160
東京都千代田区富士見2-17-1
TEL.03-3264-9240

協力 法政大学後援会

企画・制作協力 (株)日経BPコンサルティング

印刷所 図書印刷(株)



法政大学生協同組合書籍部より

<多摩キャンパス>

2021年度も皆さまの 勉学、研究の支援に尽力いたします

各キャンパスの店舗で実施していた教科書販売も、5月の上旬で終了いたしました。皆さま、ご利用いただきまして、誠にありがとうございました。

コロナ禍の現状では、来校する機会も少なくなっているかもしれませんが、話題の学術書、人文書、就職活動に関係する書籍などは、続々と入荷しています。一部の書籍はオンラインでも購入いただけるように、準備を進めています。最新情報は、法政大学生協のウェブサイトをご確認ください。

引き続き、皆さまの勉学、研究のサポートに努めています。 (多摩購買書籍部)



法政大学生協ウェブサイト

付 属 校 短 信



法政大学中学高等学校

コロナ禍で新年度がスタート

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）による感染の収束が困難な中、今年度の入学式は、中高ともに新入生とその保護者（各家庭1人）の参列に限定して本校の体育館にて行われました。

校長の祝辞では、新入生や保護者に呼び掛けやお願いがありました。「心や体の調子が良くないときなどは、安心して相談してほしい」ということについてです。2016年の学校事故により亡くなら

れた生徒の命日を「いのちの日」と位置付け、「忘れない、二度と起こさない、決意を示す」取り組みについて触れるとともに、「良い教育を行うためには、教員の深い研さんと余裕が必要」として、教員の働き方改革への協力をお願いがありました。

今年度は三者協議会の活性化が学校の活動方針に掲げられています。生徒、保護者、教職員がそれぞれの立場から対等



に話し合う活動を通して、身近な問題について考え合い、生徒の力で変えていくことに努めます。生徒の意見を聞き、三者でつくる学校運営を通して、さらに生徒が主人公となる学校を目指します。



法政大学第二中・高等学校

2年ぶりに高校1年「新入生合宿」の実施

2020年度の新型コロナウイルス感染症の影響は、以後の学校生活を大きく変え、学校行事の制限や中止など、生徒にとっては非常につらい年となりました。

まだまだ予断を許さない状況ですが、2021年度は、2年ぶりに高校1年生の宿泊行事である新入生合宿を実施しました（4月12日～16日：山梨県笛吹市）。

従来は2泊3日ですが、今回は感染症対策を十分に行う中で、4グループ（1

グループ3～4クラス）に分かれて1泊2日ずつの実施となりました。

新入生合宿では、担任による授業や生徒同士での討論などが行われ、これから本格的にスタートする高校生活に向けて「二高生としての心得」の定着や、人間関係の構築やクラスづくりに向けての基礎修習などが進められました。

また今回は、付属校教育教材である「学びのつながり」を使っでの学習も行



い、大学進学を見据えた将来のビジョンについて考える契機ともなりました。

高校1年生が、今後より一層の充実した高校生活を送れることを期待したいと思います。



法政大学国際高等学校

ポストコロナに向けた新しい学校活動へ

4月から新入生が加わっての学校生活が始まりました。入学式は新入生のみが出席し、保護者の方には動画配信をしました。オリエンテーション合宿は学校での日帰りプログラムに変え、体育祭やオレンジ祭も形態を工夫していきます。

授業は感染予防のガイドラインに従って実施しています。コロナ禍以前から生徒全員がタブレット端末を授業に持ち込み、*Google Classroomなどを利用し

てきましたが、昨年の休校期間以来、本格的に各授業で用い、今では授業の重要なアイテムとして機能しています。その結果、生徒たちが「授業は教室だけでなく、Google Classroom内にもある」という意識を持つようになったことは、以前と比べて大きな変化です。進路ガイダンスや国際交流イベント、保護者との教育懇談会などはZoomを用いてオンライン上で実施していて、好評です。

*Google Classroom:インターネット上にクラスを編成して、教材・課題の配布や採点などができるアプリケーション。



コロナ禍での対処ということだけではなく、新しい学校の可能性を開いていくきっかけになり得ると考え、新しい目で学校を見て、積極的に変化させていくことを目指していきます。

